

【 第3回デフワールドカップを振り返ってⅡ 】

大会中は他国の監督とチームの成長の為によく意見交換をします。

アジア大会で戦いましたイラン、イラク、サウジアラビアの監督に加えて、アメリカ代表の監督とも共通の友人がいたことで仲良くなりました。またアメリカ代表のコーチが昔セントルイスに住んでいた時の家から車で15分ほどの家で世界は狭いなと話しました。もしこの国と戦うときはこういった対策をするとか意見を交換します。特に得点シーンと失点シーンを数プレー前から繰り返しみることによって、そのチームの特徴が表れてくることが多いですし自チームも客観的にみるいい機会です。日本と戦う時はという質問には、「日本は平均身長が低いのでロングボールを・・・」と話しができますが、現代表チームにはヘディングは弱くない選手が揃っていますのでセットプレーでもやられることは少なく自信を持っていますし、GKもディフェンス裏へのボールの対応もいいですので問題ありません。しかし「前からプレスをかければバックパス（逃げのパス）が多く、コンタクトが弱いから強く行けばいい」「プレッシャーをかければボールを取れる」「グラウンドが悪い中だとなかなか力を発揮出来ない」という話になりました。

激しいプレッシャーやグラウンドコンディションの悪い中でも技術やテクニック、冷静に判断して打開出来る質を持っていないといけません。

逃げのパスより、自分達の力を磨き「個の成長が重要」です。そのためには普段の練習や試合で、個人戦術を発揮出来る環境にいななければいけないのです。

激しさと強さ、そして上手さを持った相手とタフなゲームの日々の積み重ねなくして、選手個々の成長はありません。ではどうすれば、成長できるのでしょうか。

それは、自分の目指している環境や目標となる人の近くに行くことです。

今と同じことをしていても、今と同じことにしかありません。変えたいなら、

自分より上手い人のいる成長できる環境に行くことです。失敗することや恥をかくことも多々ありますが成長するために必要なことです。

今の努力や、恥は、多ければ多いほど、はやく成長できます。

この大会の出場権を獲得したのは2年前のイランで行われましたアジア大会です。その時の感想は「・・・日本のレベルが落ちたのではなくアジアのレベルが半端なく想像以上にあがっていました。特にフィジカルやスピードの差がおおきすぎて、ほとんどの選手はまずそこを鍛えなければ海外で戦うことはできないでしょう。まず個で負けないことが試合では大切です。対戦する前から相手をすごいとは考えてはいけませんし、同じ人間だからやれると考えなくてはいけません。だからたとえとれなくても、強い気持ちをもってボールを猛烈

に追いまわす体力も精神力も必要となってきます。逆にそこを普段の生活から意識して継続して鍛えていくと十分に戦えるという自信を持ったところもあります。環境の違いもあり持てる力を出し切れた選手とそうでない選手もおりましたが厳しい言い方をすればそれが現時点での実力です。優勝したイランに入ってプレーできるのは個で考えると現段階では「竹内」1名のみでしょう。彼のいいところは基本技術がしっかりしており、どんな状況でも冷静に対応でき、その場面でどんなプレーが必要なのか判断できる能力がすぐれているところです。・・・」

予選リーグ最終戦はギリシャ戦(2-1)、順位トーナメントのイタリア戦は(2-5)0-2から一度は追いついてからの敗戦でした。試合は90分間で行われます。80分間は世界と戦える力が少しずつ付いてきていますが、「世界でベスト4」を本気で目指すのであればあと10分間互角に戦える力も必要です。アジア勢で1位を決める11位決定戦はサウジアラビア戦(5-0)でした。2年前完敗した相手で、選手も若い上手くて速い選手が入っておりレベルが上がっていましたが大きな違いがありました。それは「チームのためにゴールを決める」と「ゴールを決めることがチームのためになる」という選手が持っている明確な意識の違いでした。1本でも多くゴールを決めたいと考えるのは正しいですが、自分の成績を伸ばすことでチームに貢献すると変換されてしまっ

ません。チームのために成績を伸ばすとならなければいけないのです。前者は「チームより自分優先」で、後者は「自分よりチーム優先」といえるからです。

チームのためにゴールを決め勝つのか、自分のゴールよりチームの勝利、まずはそれを念頭に置き戦った結果、自分の成績も伸び勝利に結びつきます。この言葉は今大会6得点をあげました「古島」にぴったりと当てはまります。相手からみて日本代表で嫌な選手の質問には「古島」はゴールを狙う攻撃面、「松本」は戦える守備面を評価され2名の名前が挙がりました。アジアの中ではベストイレブンに入ると思いますし、世界のなかでもベストイレブンに入るよう自分の良いとことを伸ばし成長し続けてほしいと期待しています。

大会開幕戦前の自分の心境は2年前のイラン大会開幕時とよく似ており、試合結果も5試合行い2勝3敗と同じでした。最終戦前は今年の台湾大会期間中と同じで選手一人ひとりの顔がはっきりみえてチーム力と心の目標が重なっており「覚悟」を持って落ち着いて試合に入ることができました。試合は始まる前にほぼ勝敗が決まっていることがあります。世界のレベルも自分たちに足りないものもはっきりみえ、来年は同じように今年以上の成績は得られると確信しております。最大の目標でもあるデフリンピックに向けてあと半年間、選手たちと自分も成長させてもらえる時間があります。この扉を開いたのは、間違いなくいままでの代表選手彼らの力です。イラン、台湾、イタリアのピッチ内

外でのストレスフルな環境下で、彼らは立派に戦い抜きました。ここからはトルコ大会に向け新たな選手も加わり再度競争が始まりチームカアップしていきますので楽しみにしています。

